CSR REPORT

Corporate Social Responsibility

函館厚生院グループ

CSR レポート｜2024

保健･医療･福祉の融合

社会福祉法人 函館厚生院

Social welfare service corporation Hakodate Koseiin

https://www.koseiin.or.jp

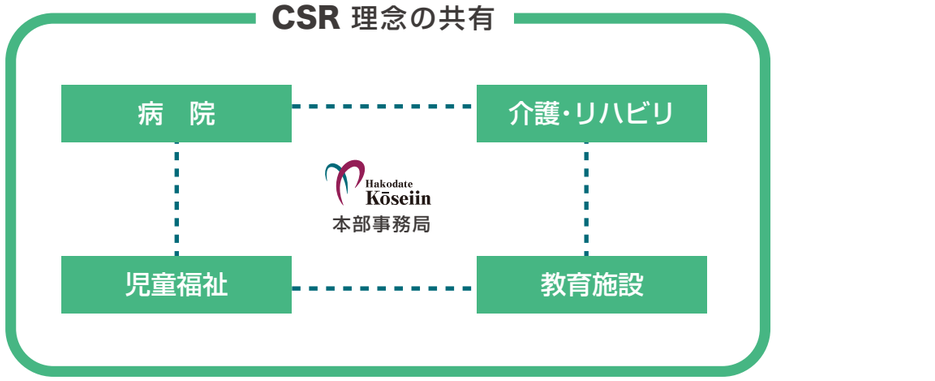
Hakodate
Kōseiin

社会福祉法人 函館厚生院

CSR REPORT

みんなの笑顔のために

ALL厚生院で地域住民の暮らしを見守る。



函館厚生院／ CSR の取組

CSR（Corporate Social Responsibility＝企業の社会的責任）経営とは、企業は利益を追求するだけでなく、環境問題や人権問題への対応をはじめ、さまざまな社会的な責任を果たすべきとする考え方やその取り組みを経営に取り入れることを指します。函館厚生院グループは、職員だけでなく、患者さんや利用者さん、地域住民など、世の中のさまざまな人々と深く関わり合いながら活動しています。こうしたステークホルダー（利害関係者）と函館厚生院グループとの信頼関係を築き、社会の一員として社会貢献活動や環境問題に取り組むなど、長期的な視野に立った経営を行っていきます。この冊子は2023年度の各事業におけるCSR活動の内容を報告書としてまとめたものです。

INDEX

函館厚生院
CSR レポート｜2024〈目 次〉

巻頭
理念・沿革／理事長メッセージ …… 3
運営施設と事業・マップ …… 5
特集：「ALL厚生院」で地域医療に貢献するために …… 7

CSRレポート
●人　権
・等しく生きる権利のために …… 11
・世界と交わる活動 …… 13
●労働慣行
・感染症に立ち向かう …… 15
・日常に安心安全を …… 17
●環　境
・環境保護でつながる …… 19
●公正な事業慣行
・医療のスクラム …… 21
●消費者課題
・被災地での活動 …… 23
・生活の質の向上 …… 25
・世代を問わない相談窓口 …… 27
●コミュニティ参画
・市民への啓蒙活動 …… 29
・すべての人に生きがいを …… 31
・地域住民とのつながり …… 33
●「育英基金」について …… 35

資料編
・函館厚生院グループ法人データ …… 37
・各病院・施設のデータ …… 39
・ISO26000対照表 …… 40
・問い合わせ先 …… 41

函館厚生院の基本理念

「慈しみのこころ」

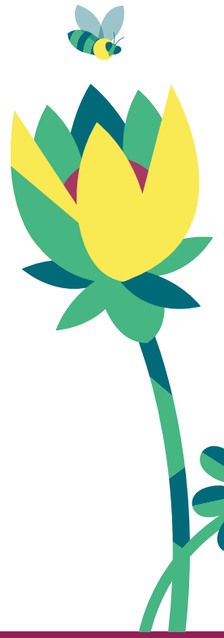
わたしたちは、法人創立の精神である
「慈しみのこころ」を基（もとい）とし、
社会福祉の増進に貢献します。

五つの基本

◎ 保健・医療・福祉の分野で、地域の中心的存在としての自覚を持って行動します。
◎ 利用者の安心・満足を得られるよう努力を怠りません。
◎ 高度な技術の錬磨に努めます。
◎ 現実の認識を厳しくし、未来を見据えて計画を立て実行するように致します。
◎ 合理的で堅実な運営・経営がそれらを支えることを確信しております。

モットー

「いつでも安らぎを」



ごあいさつ

当院は1900年（明治33年）、仲山與七・上田大法・ 寺井四郎兵衛の3氏が、行き倒れた行旅病者や度重なる大火で生活の途を失い失意に暮れる老・幼・病の人々を救わんとして「函館慈恵院」を創設したことに始まります。

その後、それぞれの時代の要請に応えて、保健・医療・福祉の分野で地域における中心的な役割を担う社会福祉法人へと成長してきました。今日では、函館市及び七飯町に3つの病院、12の施設と看護専門学校を展開し、グループ全体の職員数も約3,000人にのぼっています。

現在日本社会は、急激に少子高齢化が進んでおり、2030年には総人口の3分の1が65歳以上に達すると見込まれています。超高齢社会においては、医療・介護のニーズは今まで以上に高まり、要支援・要介護認定率は大幅に上昇し、認知症や寝たきりの患者が増え、医療・介護費用は増加していくことが予想されます。また、現役世代の人口が減少する中では、医師や看護師、介護士などの働き手が不足し、労働環境がより一層過酷な状況になるなか、グループとして持続可能な組織体制を築いていかなければなりません。

このような状況を鑑み、厚生院グループでは2030年に向け、『人材確保と定着』、『2030年に向けた厚生院グループとしての医療・介護提供体制の構築』、『CSRの推進』、『福祉の充実』という4つの重点的課題を掲げ、未来を見据えてグループ一丸となって取り組んでいるところです。

医療・福祉に求められるニーズが時の変遷とともに変わろうとも、常に社会から必要とされ、地域の一法人として社会に貢献し、その責務を果たすことができる組織であり続けたいと考えています。

函館厚生院は、これからも保健・医療・福祉の融合を目指し「いつでも安らぎを」をモットーに新たな時代に向けて歩みを続けてまいります。引き続き多くの皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

函館厚生院 理事長　**髙田 竹人**

HISTORY

函館厚生院のあゆみ

函館厚生院は、老弱者3名の介助を第一歩として、1900年(明治33年)仲山與七、上田大法、寺井四郎兵衛3氏が「函館慈恵院」を創設したことからはじまった社会福祉法人です。「いつでも安らぎを」という標語のもとで地域に根ざした医療、福祉を積極的に展開してきました。

Youtube動画
函館厚生院 はじまり物語
厚生院の成り立ちをまとめた動画です▶▶▶

1900 函館厚生院の前身誕生
函館慈恵院（のちに函館厚生院と改称）創立。北海道初となる社会福祉事業を始める。

1927 五稜郭病院の前身誕生
大森病院竣工。10室85床（のちの五稜郭病院）

1930 中央病院誕生
実費診療所改築工事竣工。名称を中央病院と改め診療を開始。5室24床（中央病院開院）

1946 「函館慈恵院」を「函館厚生院」と改称。

1952 社会福祉法人化
厚生大臣より、社会福祉事業法に基づき社会福祉法人として新定款許可。各施設名を函館中央病院、函館五稜郭病院、函館厚生育児院（現くるみ学園）、函館厚生養老院、函館厚生看護学院に改称。

高度経済成長期以降は特に児童福祉や介護福祉の分野において地域社会と結びつきを深め、支援を行っています。

1963 「育児院」を「くるみ学園」に、「養老院榎本分院」を「永楽荘」に、「養老院」を「高丘寮」に名称を改める。

1986 軽費老人ホーム「豊寿荘」開設。

1992 特別養護老人ホーム「函館百楽園」開園。

1994 老人保健施設「ケンゆのかわ」開設。

2002 「児童家庭支援センターくるみ」の設置。

2003 ななえ新病院誕生
国立療養所北海道第一病院の経営移譲をうけ「ななえ新病院」開設。

2006 地域小規模児童養護施設「いちい」開設。豊寿荘が「ケアハウス豊寿」として移転。「函館地域包括支援センター厚生院」を開設。

2010 社会福祉法人函館筑峰会との法人合併(吸収)。「ケアハウス ベイアニエス」、「特別養護老人ホーム ももハウス」、「介護老人保健施設もも太郎」の3施設の経営が移譲。

2015 地域密着型介護老人福祉施設「サテライト百楽園」開設。

2016 函館地域包括支援センター厚生院が函館市地域包括支援センター「ゆのかわ」と「たかおか」に分かれる。

2017 「法人本部」「看護専門学校」を現在地に新築移転。

2022 函館市地域包括支援センター「ゆのかわ」を湯川町に新築移転。

函館厚生院グループの運営施設と事業

■病院

函館中央病院
（527床）

函館五稜郭病院
（480床）

ななえ新病院
（199床）

■本部

本部事務局

■介護老人保健施設（介護・リハビリ）

ケンゆのかわ
（定員150名）

もも太郎
（定員100名）

■介護老人福祉施設（介護・生活支援）

百楽園
（定員129名）

ももハウス
（定員60名）

■養護老人ホーム

永楽荘
（定員150名）

■軽費老人ホーム（ケアハウス）

ケアハウス豊寿
（定員50名）

ベイアニエス
（定員50名）

■救護施設

高丘寮
（定員120名）

■介護予防・在宅支援・自立支援相談機関

函館市地域包括支援センター
たかおか

函館市地域包括支援センター
ゆのかわ

■看護学校

函館厚生院看護専門学校
（定員120名）

■児童福祉

くるみ学園
（定員45名）

Kōseiin Group

保健・医療・福祉の融合を目指し
「いつでも安らぎを」をモットーに
新たな時代に向けて歩みを続けます。

函館厚生院シンボルマークについて

飛躍感のある二つのフォルムは、「心」と「体」の健康を表し、それが重なり合ってハートを形成しており、函館厚生院が目指す「心身ともに健康であることこそ本当の健康である」ことを表現しています。函館厚生院創立100周年を記念し、平成12年1月13日に制定されました。

特集 「ALL厚生院」で地域医療に貢献するために

写真左から高田徹、中田智明、高田竹人、本橋雅壽

出席者

函館厚生院 理事長 高田 竹人
函館中央病院 病院長 本橋 雅壽
函館五稜郭病院 病院長 中田 智明
ななえ新病院 病院長 高田 徹

**看護専門学校にて函館厚生院の病院長3名が集い、座談会を行いました。
理事長を進行役に各病院の現状について、また厚生院グループの今後について語り合いました。**

高田理事長　厚生院グループでは、本年度からグループが目指す姿として、「厚生院グループ基本方針」を掲げ、日本の人口の3人に1人が65歳以上になると想定される2030年に向けた重点課題を示しました。今日はグループの3病院の院長に集まっていただき、現在の各病院の医療提供体制について、そして将来の展望、最後に介護も含めた、いわゆるALL厚生院としての取り組みについてお話していただきたいと思います。それでは、最初に各病院の現在の医療提供体制の特徴を紹介してください。

本橋病院長　当院は3つの特徴を持っています。1つめは北海道小児地域医療センターとして小児科医を14名配置して、新生児や未熟児への対応、先日50周年を迎えたNICUを中心に小児に対する医療提供体制を整えています。2つめは道南には1つしかない総合周産期母子医療センターとして周産期医療に力を入れています。小児と周産期は365日いつでも対応できる体制を整えています。3つめは整形外科領域の医療体制です。大学病院並みに14名の医師を配置して、あらゆる整形疾患に対応できる体制を整えています。

中田病院長　当院は高度急性期病院として、特に災害・救急医療に力を入れています。先日の能登半島地震における珠洲市へのDMAT派遣や年間約3,400台の救急車の受け入れ、手術についても手術支援ロボット「ダヴィンチSi」などを圏域で先駆けて導入するなど、年間5,500件以上の手術を実施しています。また、地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院として、道内でもトップクラスのがん登録件数、がんゲノム検査数、高度放射線治療を含め、高度がん治療にも力を入れています。また、臨床研修指定病院として24名の初期研修医が道内外から来ており、教育病院としての期待に応えられるような体制を構築しています。

高田徹病院長　当院は、中央病院、五稜郭病院などの急性期の後方病院として、また地域密着病院として、七飯町の住民の健康維持や入院・外来診療を中心に医療を提供しています。また、最近では病院の知名度もあがってきており、法人以外の病院からの転院依頼や七飯町以外から外来受診も見られるようになりました。

人材確保のため 魅力ある組織づくり

高田理事長

高田理事長　ありがとうございます。ところで先日も新聞の記事で話題になっていましたが、グループの医療圏である道南3次医療圏は人口減少が加速化し、加えて、生産年齢人口の減少から、医師や看護師を中心に働き手が不足し、医療資源が満足に確保できず地域医療崩壊の危機に瀕していると言われています。病院運営されている中でそのような影響を感じることはありますか？

本橋病院長　医師不足に関しては、やはり大学との連携が重要だと思っています。当院の場合、近隣の市町村の自治体病院等にも医師を派遣していますので、地域全体の医療提供体制を守るという意味でも大学との連携は欠かせません。看護師不足に関しては絶対数が不足していますから、リクルート戦略の強化、資格取得支援を中心としたキャリアアップの支援、DX化などを含めた働き方改革で業務を効率的・合理的に進めていくしかないと考えています。

中田病院長　医師や看護師に限らず、介護も含めた全職種が人材不足になっていると感じています。対策としては、保育の充実や2交替と3交替をミックスさせた変形労働制の導入など、看護師が働きやすい環境、子育て世代が安心して働ける職場環境を目指していかなければならないと思っています。医師に関しては、最近、大学医局以外の医師が当院で働きたいと着任するケースが増えてきています。人材不足については、色々なところから来てもらえる魅力ある組織づくりが重要と考えます。

高田徹病院長　やはり、医師の確保が一番の課題です。幸い、現在は法人内の異動で医師数は確保できていますが、医師の高齢化などの問題にも直面しています。看護師やコメディカルの確保については、病院の知名度もあがり、以前よりは苦労しておりませんが、定着という意味では課題は残っています。

高田理事長　やはり、人材をどうやって確保するかということが、どの病院においても大きな課題となりますね。では、少ない人員の中で、どうやって医療を提供していくかということが今後の課題になると思いますが、DXの推進などの働き方改革で、未来を見据えて今後、どのような取り組み（施策）を考えていますか？

DXによる省力化とソフト面の改善を

本橋病院長　DXの推進に関しては、web問診システムの導入やRPA（ロボティックプロセスオートメーション）を積極的に取り入れるなど、各職種の事務業務の効率化に取り組んでいます。また最近では、バイタルなどが表示される床頭台を導入など、特に看護師業務の支援を中心に進めています。

中田病院長　DXによるペーパーレス化、院内スマホによる業務の管理と改善、コミュニケーションの効率化、時間外の軽減がかなり進んでいます。来年度の目玉としては、ベッドそのものが患者さんの生体モニタリングになるスマートベッドの導入を考えています。また、まだ実現はしておりませんが、将来的には、それらシステムにAIの搭載を視野に入れて、病棟看護師の業務を省力化したいと考えています。

高田徹病院長　DX化という意味では、急性期ほど進んでおりませんが、当院としてはソフト面の改善に力を入れています。無駄な残業や休暇の回数に不公平感が出ないなど、メリハリのある働き方をすることを職員に求めて、働きやすい病院を目指しています。また、令和6年度からインドネシアの技能実習生を介護職として、採用することも決まっておりますので、さらに病院の活性化につながってくれればと思っております。

高田理事長　それでは、今後について伺いたいと思います。中央病院と五稜郭病院は紹介受診重点医療機関として、地域住民や地域の医療機関から選ばれる病院にならなければならないと思います。函館市も24万の人口を

本橋病院長（中央病院）

中田病院長（五稜郭病院）

切ってきた中で、当然、患者さんも減少してくることが予想され、今までと同じ病院運営が難しくなると思われます。そのような現況を踏まえて、今後どのようなところに力を入れて取り組んでいくのか、そのあたりのお話をお聞かせください。

地域との連携で「選ばれる病院」へ

本橋病院長　紹介受診重点医療機関としては、地域の医療機関との連携はもちろんのこと、医療と介護の連携、子育て支援、療養支援などを含めた連携も更に推進したいと考えています。加えて地域に求められる救急医療・手術医療を含めた急性期機能と小児医療・周産期医療といった当院の特色を堅持しつつ、「地域医療構想」と「医療計画」に基づいた医療提供を継続し、地域の期待と信頼に応えたいと考えます。

中田病院長　キーワードは2つです。「地域連携」と「地域医療構想」です。紹介受診重点医療機関としてもそうですが、これからの病院は地域連携なしで運営はできません。そのためには、周りの病院からの信頼や患者さんからの期待に応えられるような病院、断らない病院を目指していかなければならないと思っています。また、地域医療構想については、自院の立ち位置をしっかり示した上で、患者の多様性に応える病院にならなければ、病院が淘汰される時代になってきていると思います。そのことを念頭に置いて、自院の強みである高度急性期医療とがん診療をしっかりと地域にアピールしていかなければと思っています。

高田徹病院長　来年度から新たに方針を変えるということはありませんが、多死社会を迎えるにあたって、ベッドコントロールも難しくなってきている事実もあります。そういう意味では5年～10年後にはダウンサイジングも視野にいれ、機能的な再編も考えていかなければと考えています。

高田病院長（ななえ新病院）

高田理事長　今日の座談会の中でも「連携」という言葉がキーワードとして多く聞かれました。厚生院グループとしても法人内連携を強化することで、法人として一体感をもって地域の課題に取り組み、地域の方々が暮らしやすい社会の実現に向けてサービスを提供していくことが大事であると、あらためて感じた次第です。では、最後にALL厚生院として、今後、やっていきたいことをお聞かせください。

本橋病院長　ＡＬＬ厚生院としてやりたいこととしては、地域に先駆けて、子育て支援の取り組みをグループとして積極的に取り組んで、安心して子どもを産み、育てられる環境を作りたいと思っています。厚生院グループは、職員の家族も含めると6,000人を抱える函館市でいうと市役所に次いで2番目の組織です。当院としては小児・周産期の分野でしっかりバックアップしていきたいと考えています。

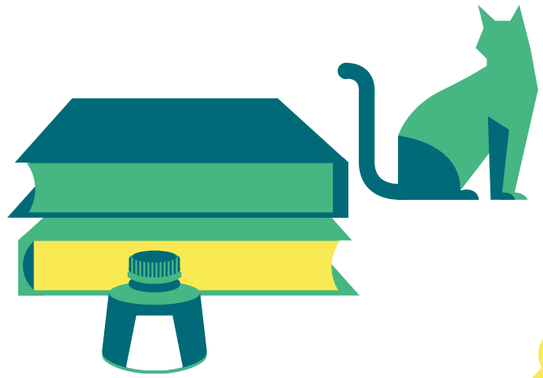
中田病院長　ALL厚生院の連携という意味では、病院と介護施設・在宅医療の連携をさらに強化する必要があると感じています。ICTを上手く活用して法人内連携が進むように本部主導で基盤整備をして、病院の後方の受け入れ施設として、老健や特養、在宅サービスともALL厚生院としてさらに連携を強化できればと考えています。

高田徹病院長　当院は以前よりＡＬＬ厚生院の恩恵を受けているものと感じております。さらに連携を強化していければ、各施設の利用者や職員の安心・安全に寄与するものと確信しております。

高田理事長　本日、各病院の話を聞いて、ALL厚生院として今後も地域に貢献していくためには、「働きやすい組織づくり」そして「DXの推進」がキーワードになってくると感じました。いずれ、法人でもIDを1つにして、1患者1IDの中で運営していくことも必要になってくると思います。それが生涯を通じて責任をもってグループで支えるという地域住民に対しての法人としてのメッセージにもなると思います。今後は、グループ内の介護施設も含め、さらに連携が深まるような話し合いができればと思います。
本日はありがとうございました。

Kōseiin Group

中央病院
五稜郭病院
ななえ新病院
ケンゆのかわ
もも太郎
百楽園
ももハウス
永楽荘
ケアハウス豊寿
ベイアニエス
高丘寮
包括たかおか
包括ゆのかわ
函館厚生院看護専門学校
くるみ学園



REPORT
Corporate Social Responsibility

厚生院グループからのCSR報告書

- 人　権
- 労働慣行
- 環　境
- 公正な事業慣行
- 消費者課題
- コミュニティ参画

Hakodate Kōseiin

人権
Corporate Social Responsibility

等しく生きる権利のために

永楽荘　百楽園　高丘寮
ケンゆのかわ　ももハウス　くるみ学園

安心サポート事業 | 生活困窮者に対する地域貢献活動

函館市は生活保護受給者、生活困窮者が全国・全道と比較しても高い水準で推移しており、当法人は地域貢献活動である「安心サポート事業」に取り組む必要性を認識し、令和3年8月からこの事業に参画しています。事業の一つである“経済的支援事業”を展開するうえで法人全体での事業の共通理解と取り扱いがスムーズにおこなえるよう、対象地域の選定や立替金の取り扱い、援助活動を法人内6施設が輪番制で行い、担当者が標準的に支援できるよう手順書を作成し運用しています。また、平成30年1月より永楽荘では経済的または環境上の理由から食料確保が困難な方を対象に、一定期間、確かな食料提供を行う支援事業を実施しています。

年度別　食料緊急支援サービス実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
件　数	2件	4件	7件	23件	21件
食　数	10食	12食	22食	188食	176食

無料低額診療事業 | 生活困窮者の自己負担減免（無料）

無料低額診療事業とは社会福祉法第2条第3項に基づいて、生計困難な方が経済的な理由により必要な医療を受ける機会を制限されることのないよう、無料または低額な料金で診療する制度です。このほか当法人では経済的理由による生活困窮者の医療費等の自己負担額減免を行っています。

利用者負担軽減額	令和3年度	令和4年度
無料低額診療事業	5,652,724円	5,755,387円
その他の減免	12,912,954円	14,195,326円
合計	18,565,678円	19,950,713円

利用者負担を軽減した場合の利用者負担軽減額(無料又は低額診療の割引額含む)

対象となる方

・低所得者、または低所得世帯で、医療費の支払いに困っている方
・病気や障害などで収入がなくなり困っている方
・リストラや失業のため一時的に収入がなくなり困っている方
・医療費の支払いをすると生活が困難になる方
・その他（住所不定の方、破産をされた方、外国人の方、DV被害者など）

安心サポート事業概要

経済的援助事業

受付窓口　市内包括支援センター、自立相談支援機関、居宅介護支援事業所 等

対象者　既存の制度適用をしても尚、生活に困窮し、生命に関わる緊急性を要する方

援助方法　食糧費や光熱水費・日常品・必要な医療費を上限3万円として現物給付で支給します。

対　象　外
①生活保護を受給している、若しくは施設入居している場合
②緊急性のない滞納金や日常生活に充てようとする場合
③借入金に充てたり、単に現金を求めたりする場合
④すでに同一市町村内の参加法人で本事業の支援を受けている場合
⑤対象者が自立に向けた支援を受けずに、経済的援助のみを希望する場合
⑥その他、参加法人が本事業による支援が妥当ではないと判断した場合（例）暴力的言動、著しい非協力的態度　等

●担当者からの声

令和3年8月から地域における公益的な取り組みとして「生活困窮者に対する安心サポート事業」に加入し、これまで援助に至ったケースは11件にのぼり、相談件数は年々増加傾向にあります。この事業を担当し実感したことは、想像以上に制度の狭間で苦しんでいる方が多いということです。生活困窮に関する相談の場合、迅速な対応と支援対象者に安心して頂くことが、最も重要だと考えます。この事業がさらに周知され、活用・利用して頂くことで、困窮要因が少しでも解消され、安心した生活が送れる方が増えることを願います。

経済的援助事業 支給例

法人内独自事業概要

食料緊急支援サービス事業

受付窓口　包括支援センターたかおか・ゆのかわ

対象者　上記、包括支援センター担当圏域にお住まいの65歳以上の方※

援助方法　原則、3日間 計9食分の食料提供（3食/1日）　※お問い合わせの内容に合わせ、柔軟に対応します

対　象　外
①緊急性がないと判断される場合
②対象者が自立に向けた支援を受けずに、経済的援助のみを希望する場合
③その他、参加法人が本事業による支援が妥当ではないと判断した場合　例）暴力的言動、著しい非協力的態度 等

●担当者からの声

対象年齢を65歳以上としておりますが、お問い合わせの状況により、柔軟に対応しています。支援が必要な方々に利用して頂けるよう事業内容の周知と法人内連携を強化し、窓口にて柔軟な対応（対象年齢・提供制限数・対象圏域の緩和）をした結果、支給数は徐々に増加し、令和5年度は21件176食を提供しております。この事業を必要とする方々へ情報が届き、今後の生活基盤を整える資源の一部となれば幸いです。

食料緊急支援サービス事業 支給例

Hakodate Kōseiin

人　権
Corporate Social Responsibility

世界と交わる活動

“慈しみのこころ”を未来へつなぐため

異文化交流　百楽園

インドネシア技能実習生が小学生と交流

百楽園のインドネシア技能実習生6名が、令和5年9月11日に近隣の高丘小学校を訪問し、交流会を行いました。技能実習生が5・6年生の教室で母国のインドネシアをスライドで紹介し、日本とインドネシアの文化の違いなどを説明したあと、交流を兼ねて日本の遊びを体験し、楽しいひと時を過ごしました。

日本の心をつなぐ　くるみ学園

「厚生院の墓」「育児の墓」の墓参

令和5年8月8日、くるみ学園職員4名・函館社会福祉施設連盟職員3名・くるみ学園入所児童5名の合計12名で、函館市船見町の墓地内（外国人墓地付近）にある「函館厚生院の墓」と函館市営住吉町共同墓地内にある「育児の墓」の墓参りをしてきました。当園では毎年この時期にお墓参りに行き、子ども達にお墓参りやお墓を守る大切さを伝えています。

函館厚生院では海外からの研修生を受け入れています

■技能実習生

令和3年12月に技能実習生1期生6名をインドネシアより受け入れ、以降毎年6名ずつの実習生を当法人で受け入れています。現在では17名の実習生が在籍しております（令和6年度には4期生10名を受け入れ）。来日当初は日本語でのコミュニケーションも難しそうな様子でしたが、徐々に日本の生活にも慣れ日本語が上達していきました。技能実習生を受け入れた当初はコロナ禍ということもあり、あまり行事の参加はできませんでしたが、今では日本の文化、行事にも触れ合いながら技能実習生一人ひとりが夢や目標に向けて、介護技術や日本語を習得する為に日々努力しております。

■モンゴル留学生

令和5年7月、日本国際語学アカデミー・函館校（住所：函館市湯川町1丁目12-14）に通うモンゴル留学生をアルバイトとして採用しています。当初は日本語が通じないことや初めての介護の現場とあって戸惑う様子もありましたが、今では積極的にシーツ交換や物品補充、環境整備等の直接介護以外の周辺業務を熱心に取り組んでいます。

■日本語講習

技能実習生1年目を対象に、日本語講師を招いて月2回、日本語講習会を行っています。そこでは日本語検定に向けての勉強や文法、漢字など、また日本の文化等について学んでいます。技能実習生は真剣に取り組みわからないことは積極的に講師に質問し、日本語習得に向けて頑張っています。

TOPICS

技能実習生が介護福祉士試験に合格!

第1期 技能実習生のマリハ・ムフィダーさん（呼び名：マリハさん、ケンゆのかわ勤務）とシルヴィアニサ・ヌルハニバーさん（呼び名：イフィさん、永楽荘勤務）が介護福祉士の国家試験を受験し、見事に合格しました。試験は全て日本語で行われるため、在留期間内に合格するのは極めてハードルが高いと言われていますが、2人は1日2～3時間の猛勉強を欠かさず続け、合格を勝ち取りました。このことに関しては、令和6年4月3日付発行の函館新聞において記事として紹介されています。

Hakodate Kōseiin

労働慣行
Corporate Social Responsibility

感染症に立ち向かう

KMAT［Koseiin Medical Assistance Team］の組成

ALL厚生院感染対策チーム

新型コロナウイルスの分類が2類から5類へ移行することが決定した際、「濃厚接触者」という概念がなくなり、感染経路の追跡等も行われなくなることから、より感染拡大してしまう恐れや、クラスターが起きた際も保健所等行政機関からのフォロー体制もこれまでと同様とはならなくなるため、法人独自の対応策の検討が必要と考えました。上記を踏まえ、法人一丸となって（ALL厚生院として）感染症等への対策を講じていくため、各病院、各施設からメンバーを編成し、組織横断的に活動する「感染対策チーム KMAT」を令和5年4月1日付で組成しました。
感染対策の標準化を図るため、各施設ラウンド※1を行い、感染予防対策レベルの向上・意識統一を図るほか、理事長以下、KMATメンバーが定期的に集合し、感染対策に関する諸問題について、様々な視点から議論を行っています。また、新型コロナウイルス等罹患者が発生した場合は速やかに施設～KMAT間で連携をとり、状況を共有しつつ、施設介入し、拡大防止策を行っています。

※1 施設の感染対策状況等を現地で確認し、適宜、指導・援助を行う他、レポートを作成し、情報を共有、更なる改善に繋げています。

KMATの主な活動内容

- 法人内の感染対策の標準化（感染BCP策定、訓練実施、カンファレンスの開催）
- 各施設の特徴を踏まえた感染対策の個別化
- 各施設への定期ラウンドによる感染対策の指導教育
- 感染アウトブレイク、クラスター発生時等の現場指揮及び指導
- 各施設からの感染相談の窓口
- その他、法人本部への提言など

KMAT 主要メンバー

- 函館五稜郭病院 ／ 加地副院長（医師）、山根感染情報管理室副室長（看護師）
- 函館中央病院 ／ 加藤感染管理室主任（看護師）、野澤検査科主任（臨床検査技師）
- ななえ新病院 ／ 目黒診療部長（医師）、菅井薬剤科係長（薬剤師）
- もも太郎 ／ 金崎副施設長（看護師）
- 百楽園 ／ 水沢施設長
- 本部事務局 ／ 坂野事務局長、金子総務係長

KMAT組成の辞令交付式

理事長以下が集合した感染予防対策会議

施設ラウンド

施設ラウンドレポートの一部

KMATメンバーが厚生院グループ各施設の担当職員からの聞き取り、施設内の巡回などをとおして、感染対策のサポートや指導を行います。ラウンドで確認した現地の状況はレポートとして、法人内で情報共有されています。

Hakodate Kōseiin

労働慣行
Corporate Social Responsibility

日常に安心安全を

職場の安全を守る　ももハウス

防犯研修

令和6年1月10日、防犯研修会を開催しました。函館中央警察署生活安全課生活係より講師を招き、①不審者への対処方法②職員の護身術③防犯意識の維持向上についての研修を行いました。刺股を使用した実践では、不審者の体のどの部分を抑えると効果的であるかなど具体的な指導があり、大変勉強になりました。職員間で今回の研修内容を共有し、施設の安全確保ならびに防犯意識向上に役立てたいと思います。

刺股（さすまた）の使い方

刺股は身の安全を確保しながら不審者を抑え込むことができる道具です。長い棒の先端にあるU字型の金具で原始的な方法に思えましたが女性職員でも無理なく扱うことができました。

身体に負担をかけない介護　百楽園

ノーリフティングケア

介護施設において、全国的に介護職員の腰痛発生件数が増え続けており、これが原因で離職してしまう職員もいます。そこで百楽園ではノーリフティングケアに取り組んでいます。ノーリフティングケアとは介護する側・される側双方において安全で安心な、持ち上げない・抱え上げない・引きずらないケアのことです。不良姿勢をなくし、身体負担がかかる作業を減らすことで、職員が安全で働きやすい職場をつくることを目指しています。

子育てママの不安を解消　中央病院

オンラインマザークラス

出産予定の妊婦さんに対し、妊娠中から少しでも出産や産後への不安や疑問を解消して入院することができるよう、中央病院では母親学級（マザークラス）を開催しています。コロナ禍前は対面形式でしたが、現在はオンラインで実施しています。妊婦さん自身の身体のこと（産科・婦人科）やお子さん（小児科）に関してだけではなく、出産・育児に向けた準備物品等も含めて、幅広い情報提供を行っています。

オンラインマザークラス概要

- 日　時　第1木曜日（月1回）の14：00から約1時間　※第1木曜日が祝日の場合、日時が変更となる場合があります
- 場　所　ご自宅等（スマートフォン・タブレット・PCで受講）
  インターネット会議ツール「ZOOM」を使用して行います
- 対　象　中央病院で出産予定の方、または妊婦健診を受けている方
- 受講の条件　中央病院で妊婦健診を1回以上受けている方

Hakodate Kōseiin

環　境
Corporate Social Responsibility

環境保護でつながる

ものを大切にするこころ　包括ゆのかわ

廃材でベンチづくり

包括ゆのかわ内の木製塀を撤去する際に出た廃材を地域の方に使って頂ける「ベンチ」に再利用する活動を行いました。深堀中学校教頭先生が技術指導を行い、生徒の有志により製作が行われました。今後、町会館イベント等にて活用予定です。捨てられるはずだった木材に温かい気持ちが込められ、これからは地域の多世代の方々がゆったりと腰掛け、交流を楽しんでいただけるベンチへと生まれ変わりました。

ほりホリ市

包括ゆのかわでは深堀町会と協力して「ほりホリ市」を開催しました。事前に集めた「自分はもう使わないけど、他の誰かは必要かも」という品々が並び、多くの地域の方にご来場頂きました。若い世代の「地域の担い手としての意識」が高まり「SDGs※の視点」が深まるよう、深堀小・中学校の児童・生徒にボランティアとしての参加を呼びかけ、多世代が交流することができました。多世代が繋がり、楽しい取り組みができるよう、今後も協力していきます。

※SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）

世代を超えた交流　くるみ学園

敬老の日にゴミ拾い

くるみ学園では、敬老の日（令和5年9月18日）に、日頃お世話になっている法人内老人施設周辺のゴミ拾いを実施しました。ゴミ拾いに参加した子ども達は、終わった後も「楽しかった！また参加したい！」と元気に答えていました。ゴミ拾い終了後に特別養護老人ホームももハウスと介護老人保健施設もも太郎を訪問し、子ども達から代表の方へ敬老の日のプレゼントを手渡しました。

ロングランの取組　五稜郭病院

環境ボランティア活動

五稜郭病院では、臨床工学科が中心となり、環境保全の取り組みの一環として、月に1回、環境ボランティア（ふうちりん広場・病院周辺地域の清掃活動）を積極的に行っています。平成18年から始めたこの活動は今年で17年目、延べ121回実施しています。空き缶やペットボトル、吸殻などを回収し、病院周辺の環境美化に努めることで、地域の医療事業者としての責任を果たすとともに、職員の環境教育にも役立てています。

Hakodate Kōseiin

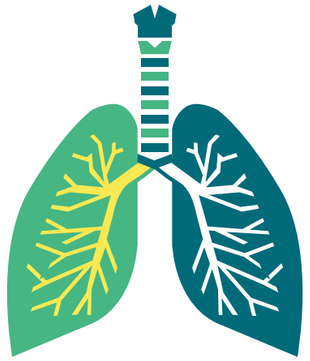
公正な事業慣行
Corporate Social Responsibility

医療のスクラム

肺がん手術の新たな連携

五稜郭病院

肺がん手術における術前・術後のリハビリテーションと地域連携



道南地区は、高齢化と高い喫煙率から肺がんの多い地区であり、年間600人ほどが肺がんと新規に診断されます。その半数以上にあたる350人ほどが五稜郭病院で治療を開始されており、手術は、毎年150人ほどが受けられています。肺がんの手術は多くの場合は安全に行うことが出来るようになりました。特に五稜郭病院では、リハビリテーション科、栄養科、看護部のサポートにより、合併症もなく1週間程度の入院で退院されます。手術になる患者さんの平均年齢は約70歳であり、80歳以上で手術を受けられる方も多くなってきました。その中で、現在最も心配な点は、患者さんの高齢化とともに、独り暮らしの方や、高齢世帯の患者さんが多くなってきたことです。肺を切除したことによる体力の低下は高齢の方では特に心配であり、高齢世帯では、生活の質が下がってしまうことも懸念しています。そのような患者さんの暮らしの質を守るために、長期入院が困難な急性期病院である五稜郭病院と、呼吸器リハビリテーションと栄養管理に秀でた回復期病院である高橋病院が連携し、多職種で行う呼吸器外科術前・術後リハビリテーション地域連携を開始しました。この連携を通じて、肺がんで手術を受ける高齢な患者さんが術後も元気に暮らして頂けることを願っています。

公正な事業慣行

五稜郭病院の肺がん治療における連携体制

五稜郭病院

受　診 ～ 術前リハビリテーション

- 呼吸器外科：受診いただき、手術適否の判断後、手術の予定を組みます。
- リハビリテーション科：リハビリテーション科で術前身体機能評価と術前リハビリテーション指導を行います。

連携医療機関

五稜郭病院リハビリテーション科作成のプロトコールに従い、
リハビリテーション入院・退院後の訪問看護、行政介入などの手配をします。

五稜郭病院

手　術

五稜郭病院に入院いただき、手術を施行します。

連携医療機関

術後経過が安定した時点で、再度連携病院に転院し、安定して社会復帰できるように術後リハビリテーションを行います。
その際のリハビリテーション記録や温度版などはID-linkを通じて五稜郭病院でもチェックを行います。

五稜郭病院

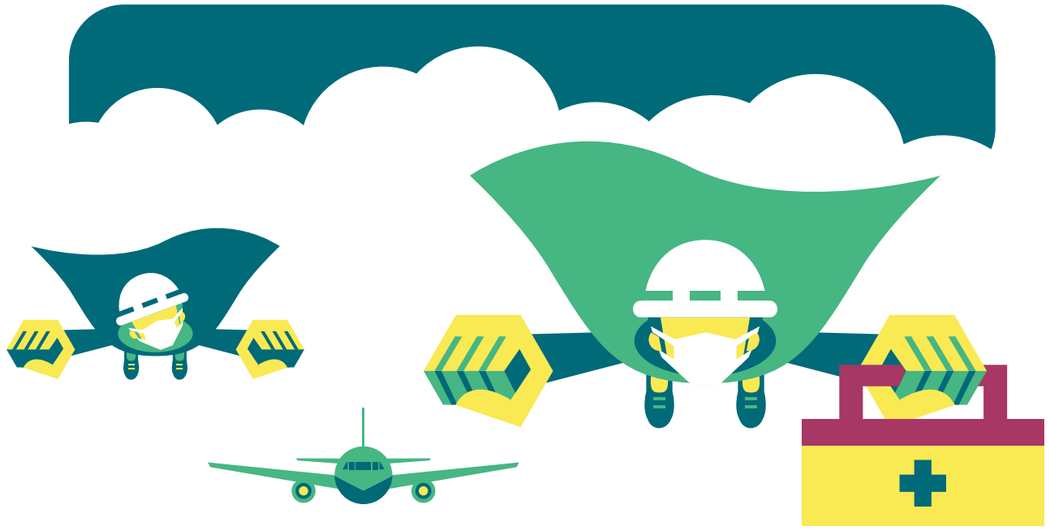
連携病院退院後に外来通院を開始します。
外来通院中も、年齢経過による体力低下などに備えて、地域連携は継続します。

Corporate Social Responsibility

Hakodate Kōseiin

消費者課題
Corporate Social Responsibility

被災地での活動



被災地の医療を守る　五稜郭病院

災害派遣医療チーム［DMAT］の派遣

令和6年1月1日16時10分頃、最大震度7の地震が能登半島を襲い、地震や津波によるインフラ損失や家屋倒壊がありました。このような大規模災害が発生した場合には全国の医療機関からDMAT（災害派遣医療チーム）が派遣され、被災地の医療を途絶えさせない活動が行われます。五稜郭病院は、令和4年よりDMATを養成し、同年にDMAT指定医療機関として指定を受け、新たに災害時の医療支援を担っています。この度の能登半島地震に対しては、国の要請により石川県珠洲市へDMAT１隊（医師１名、看護師２名、業務調整員２名）を派遣し、同市における医療支援活動のサポートを行いました。DMATとしては、初めての実動活動となりましたが、日ごろの訓練や現地チームとの連携により、微力ながら被災地貢献に寄与できたと思います。今回の経験を糧に、災害対策やDMAT活動の更なる習熟を重ね、道南地域の医療支援に貢献できるよう、取り組んでいきます。

多種多様な支援団体が集まる珠洲市保健医療調整本部

派遣された五稜郭病院DMAT

DMAT（ディーマット）とは｜厚生労働省

「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており※、災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって略して「DMAT（ディーマット）」と呼ばれています。

※平成13年度厚生科学特別研究「日本における災害時派遣医療チーム（DMAT）の標準化に関する研究」報告書より

被災地での感染対策に尽力　ななえ新病院

目黒医師、日本環境感染学会災害時感染制御チーム［DICT］へ参加

平成23年の東日本大震災を契機に発足した災害時感染制御チーム［DICT］の一員として、ななえ新病院診療部長の目黒英二医師が令和6年1月1日に発生した「能登半島地震」の被災地における感染対策や医療相談などに従事しました。2月上旬に活動へ参加しましたが、現地では断水の長期化もあり感染対策が難しく、道路の崩壊や建物の倒壊など障壁も多かったなか、室内換気や手指消毒の徹底、ベッド間隔の確保など、被災地における感染対策の提言などを行いました。

避難所ラウンドの様子

能登の復興を祈る“能登ポーズ”（前列左が目黒医師）

DICTとは｜一般社団法人 日本環境感染学会（JSIPC）

避難施設等における感染制御活動を支援するためにJSIPCが主体となって感染制御の実務経験者により編成される職能集団
- 感染制御に関する専門的研修や教育を受け、専門団体が認定する資格を有していることが望ましい
- 災害の急性期（概ね48時間以内）に活動開始可能な災害時感染制御チーム

消費者課題

Hakodate Kōseiin

消費者課題
Corporate Social Responsibility

生活の質の向上

在宅復帰を支援 ——— ななえ新病院

Reらいふ | リハビリテーション室内に住居１軒まるごと設置 日常生活動作（ADL）訓練スペースを新設

ななえ新病院の7階リハビリテーション室内に、自宅と同じような環境で日常生活動作（ADL）の訓練ができるスペース「Reらいふ」を新設し、令和5年4月から運用を開始しました。「Reらいふ」は、玄関・居間・台所・和室・浴室・トイレ・洗面洗濯室・庭・物干し場など住居まるまる１軒を室内に建てたような造りになっており、ご自宅での生活をより具体的にイメージしながらリハビリテーションができるほかリハビリテーション室で行った様々な訓練が実生活の中でどのような動作に繋がっているかを確認することができます。例えば、外開きの玄関にはU字ドアガードのほか、鍵も2つついており、実際にドアや鍵の開け閉めを練習することができます。また、玄関・室内のドア、和室への入り口にはあえて段差を設けており、自宅における転倒リスクを確認することができます。他にも2種類のトイレ（便器横向き・正面向き）は、通常の車椅子ではなかなか通れない一般住宅と同じ幅の設計にしており、入り口で立ち上がって便座まで移動するなどの動作を訓練可能です。浴室についても浅め・深めの2種類の浴槽を用意しているほか、台所や冷蔵庫、洗濯機などもあり、調理・洗濯・食器洗いなど日常生活には欠かせない活動を実際に訓練・体験したうえで、退院に向けて準備することができます。自宅に帰られてからの困りごとやリスクなどを事前に確認し、一人ひとりの状況に合わせた課題解決が可能となっており、地域のより一層の安心に繋がることを期待しています。

ななえ新病院YouTubeチャンネルにおいても「Reらいふ」について取り上げていますので、ぜひご覧ください▶▶▶

地域のニーズに応える ——— ななえ新病院

総合的な在宅支援事業 | 七飯町内における 医療・介護ニーズへ対応する

ななえ新病院では七飯町内における医療・介護分野でのニーズに応えるため、訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション・訪問薬剤指導・訪問栄養指導などの在宅支援事業を幅広く展開しています。通常の入院・外来診療に加えた訪問・通所事業の幅広い展開により、医学的管理が必要な方や通院が困難である方などにも住み慣れた自宅等での生活を選択肢としてご検討いただけるようになりました。自宅等へ直接訪問することによって、普段の生活環境や状況を理解し、それに合わせた療養上の不安解消に繋げるとともに、より安心して普段の生活を送っていただけるよう努めています。

在宅支援事業専門車輌

デイケア用リハビリテーション室

介護予防のすすめ ——— ケアハウス豊寿

GO！GO！ウォーキング | フレイル※予防運動の開始

※フレイル：加齢に伴って心身が衰えた状態のこと

ケアハウス豊寿では、コロナ禍による外出活動等の減少をきっかけとしてフレイル予防運動「GO！GO！ウォーキング」に取り組んでいます。朝に万歩計を配付し夕方16時までの歩数を集計します。歩数に合わせて、各参加者専用の「駒」が特製の地図（ケアハウス豊寿⇒函館山⇒湯の川温泉⇒函館新道⇒ケアハウス豊寿）上を進んでいき、自身の成果をすごろく感覚で実感することができます。体力測定やADL（日常生活動作）の向上、転倒リスクの低減などに繋がることを期待しています。

「今日はどこまで進んだでしょうか」

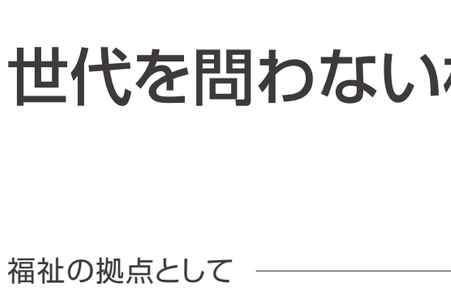
消費者課題
Corporate Social Responsibility

世代を問わない相談窓口

福祉の拠点として　包括たかおか　包括ゆのかわ

福祉相談窓口の拡充

地域包括支援センターは、令和4年度から「自立相談支援機関」を併設した新たな「福祉拠点」として従来の高齢者の相談窓口のほか、世代を問わない困りごとを抱える方の総合相談窓口として生まれ変わっています。また、困りごとを抱えながらも自ら相談ができない方の早期発見などのために、地域の方々や民生委員・児童委員、各関係者の方々などが、気軽に立ち寄り、福祉拠点職員との情報交換や相談を日常的に行える多目的ホールも併設しています。新たな「福祉拠点」として1年以上が経過し、障がい、子ども、生活困窮、ひきこもりなどといった複合的で幅広い相談が寄せられており、相談件数も増加しています。今後も法人内外の関係機関と連携を密に取りながら、利用者に寄り添い、諸問題の解決と函館市民の福祉向上を目指して取り組んでいきます。



函館市地域包括支援センター たかおか

函館市地域包括支援センター ゆのかわ

地域包括支援センターの役割

地域包括支援センターについて（函館市）

函館市では、高齢者等の相談窓口として、「函館市地域包括支援センター」を市内10カ所に委託設置しています。保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーなどの専門職が、高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、さまざまな支援を行っています。令和4年度（2022年度）からは、自立相談支援機関を併設した「福祉拠点」として、地域包括支援センターの機能を拡充し、高齢者以外の困りごとの支援（障がい、子ども、ひとり親、生活困窮等）も行っています。相談は無料です。お気軽にご相談ください。

既　存
高齢者の困りごと支援　介護保険制度
■相談員6～12名
・保健師 ・社会福祉士 ・主任ケアマネージャーなど

＋

令和4年度より
高齢者以外の困りごと支援　生活困窮者自立支援制度
■相談員3名
・相談支援員兼就労支援員　・主任相談支援員

コミュニティ参画
Corporate Social Responsibility

市民への啓蒙活動

命の大切さを伝える　中央病院

NICU・GCU開設50周年記念 市民公開講座

中央病院は令和5年7月、NICU・GCU（未熟児センター）開設50周年を迎え、これを記念し、11月25日に市民公開講座を開催しました。1,000名を超えるお申込を頂戴し、抽選のうえ、当日は約300名にご来場いただきました。まず中央病院木田副院長による『～今までの歩みと、今後の展望～』と題した講演を行い、次にTEAMNACSリーダー・森崎博之氏による『生きることは食べること』と題した特別記念講演を行いました。最後は木田副院長および森崎氏に加え、北海道大学総長・寶金清博氏と函館市長・大泉潤氏の4氏による「待ったなし、少子化について考える」と題したパネルディスカッションを行いました。いずれも大いに盛り上がり、あっという間の2時間となりました。この他、NICU・GCU開設50周年を記念したムービーを作製しました。中央病院のYouTubeチャンネルにアップしておりますので、ぜひご覧ください。

■NICU：Neonatal Intensive Care Unit（新生児特定集中治療室）
早産児の容態を24時間体制で全身管理するための施設です。日本では1970年頃から導入されました。

■GCU：Growing Care Unit（新生児回復室）
NICUでの集中治療により容態が安定した新生児が入院するための施設です。

◀YouTube動画｜NICU・GCU開設50周年 記念動画

養護老人ホームの啓蒙活動　永楽荘

■出前講座

永楽荘では養護老人ホームの周知や福祉知識の普及を目的とし、各町会等の地域へ出向き、講座を開いています。

開講先　町会、子供会、企業、学校 等（要望に応じ、柔軟な対応可）

内 容　養護老人ホームの啓蒙活動、法人内地域貢献活動説明、施設見学、福祉・介護の各種制度説明、他介護施設概要説明、技能実習生との国際交流 等

●担当者からの声

令和5年度は3町会へ伺い施設の概要説明等を実施しました。講義終了後、参加者から各施設や介護保険等についての質問や「これまではそう思っていなかった」、「参考になった」等の声を聞くことができました。地域の方々の想いを聞く事ができ、大変貴重な時間を過ごさせて頂きました。

地域での健康づくり教室　包括たかおか　もも太郎

■高橋病院との共同企画

令和5年7月、8月、9月の合計3回、包括たかおかの多目的ホールにて、高橋病院との共同企画「健康づくり教室」を開催しました。高橋病院の医師や看護師、作業療法士、そして包括たかおかの職員が、健康寿命を延ばそうというテーマに沿って、健康についての講話や体操、手工芸、健康相談などを行いました。来年も地域住民の誰もが参加できる健康づくりと交流の場として、協働して取り組んでいく予定です。

■赤川町会でのリハビリ体操教室

もも太郎では、赤川町在住の65歳以上の方を対象に、「住民が顔を合わせる場を増やすこと」を目的とした『健康づくり教室（リハビリ体操教室）』を赤川町会館で開催しています。令和5年度は計5回開催し、当施設の作業療法士がタオル体操やリズム体操、脳トレ、ボール運動などを行い、運動機会の提供、健康増進、介護予防の支援を行いました。毎回7、8名程度の町民が参加し、参加者からは「無理なくできる」「家でもやってみたい」などの声が聞かれました。

認知症サポーター養成講座　包括ゆのかわ

包括ゆのかわでは、認知症について正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の方やそのご家族に対しできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成し、認知症の方などに優しい地域づくりに取り組んでいます。DVDやテキストを用い、認知症の症状やその予防、認知症の人に接する時の心構えなどをお伝えしています。高齢者支援関係機関（民生委員等）の他にも、若い世代にも理解が進むよう毎年地域の小学校や高校、看護学校へ出向き授業を行っています。

Hakodate Kōseiin

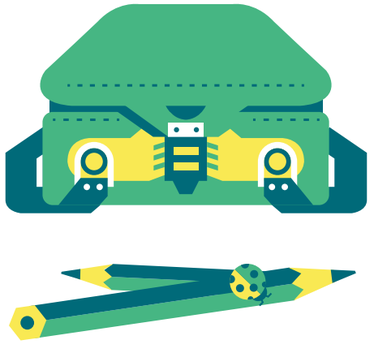
コミュニティ参画
Corporate Social Responsibility

すべての人に生きがいを

こどもたちは地域の宝

中央病院

子育て支援室「あそっか」



函館・道南では、15歳未満の人口が年々減少しています。このようななか、大人がこどもを大切にし、こどもが輝き続ける地域としていくため、中央病院に「こども子育て支援室」を設置しました。部屋の愛称は「あそっか」と言います。考え方がネガティブになってしまったが、話し合いなどにより、その理由を分かち合い、ポジティブに変わる時に思わず口にするフレーズ「あ、そっか！」。こども子育て支援室では、一人一人の難しさや苦しさを一緒に考え、「あそっか」と気付き、ポジティブな考え方に変換するサポートができればと考えています。また、この部屋は心に留めるべき理念をもって設置しています。

「こどもと共に、子育てを共に、地域と共に」

こどもを第一に考えている多くの方々に支えられ、活動を行っています。これからも地域の関係機関と互いに応援し、支え合い「地域と共に」成長することを目指しています。こどもに関する様々な相談内容（医療や受診の相談、医療費や福祉制度、こどもの預かりや子育ての息抜き・休憩、学習や学校について、家庭問題、こどものケガや事故、子育てグッズ、性的マイノリティ、ことばの相談）について医師や看護師など多くのスタッフが対応しています。また、障がいを持つこどもたちとその家族を紹介する「紹介ボード」や、おさがりとして寄付頂いた衣類を必要な方へ提供する「おさがりコーナー」も設置しています。そのほか、こどもに関わる様々な職種の方を対象に、こどもに関する知見や各職種について相互理解を深める『チャイルドファーストはこだて』や、こどもの性虐待被害の聞き取りに関する研修『RIFCR※研修会』の開催、医療的ケア児とその家族を対象とした『お空見サロン』の開催など、地域のこどもに接するスタッフを対象とした研修会・情報交換会の開催も行っています。

※RIFCR（リフカー）とは
子どもの周囲にいる大人が性虐待、身体虐待、ネグレスト、DVの目撃など人には話しづらい経験をしたことが疑われる子どもにどのように面接し何を聞くべきで何を聞くべきではないかということを半構造化した面接プロトコル。

高齢者の集いの場所を創出

みかんカフェ

包括たかおか

令和5年7月22日、認知症カフェ「丘の上のみかんカフェ」、令和6年1月27日「海辺のみかんカフェin大願寺」を開催しました。包括たかおかの圏域内事業所の職員と一緒に企画し、当日はボランティアの方にもご協力いただきました。みかんカフェにご賛同いただいた方々のご協力のもと、認知症についてのお話、フルートやピアノによるミニコンサートの開催、吹奏楽団による演奏をご披露していただきました。地域の方々と認知症について和やかな雰囲気のなかでお話しすることができました。

ぽかぽかカフェ

包括ゆのかわ

包括ゆのかわでは、湯川三丁目町会の方を対象に毎月一回、認知症カフェを開催しています。近くの看護学校を会場として借用し、毎回15名前後の看護学生が参加し、「昔の話」や「今どきの話」等で盛り上がるなど、楽しいひと時を過ごしています。また、障がい者施設の方にパン販売に来ていただき、カフェタイムを楽しんだ後、認知症予防に向けたミニ講話や軽体操、物づくりなどを行っています。今後も町会や学校、関係機関がつながり、連携が深まるよう活動していきたいです。

ケアハウスの日常

ベイアニエス

道南初のケアハウスとして誕生したベイアニエスは、入居者の主体性を尊重し、フレイル予防・食事サービス向上に力を入れ取り組んでいます。特に食事は創意工夫を凝らし、季節催事毎に楽しめるメニューを提供し、入居者から好評を得ております。また、趣味活動（運動レク、健康体操、カラオケ、麻雀等）の機会も提供し、健康寿命の延伸、生きがいにつなげています。

運動レク

健康体操

敬老会祝膳

ケーキバイキング

コミュニティ参画
Corporate Social Responsibility

地域住民とのつながり

笑顔が集う場づくり

４施設合同夏祭り

湯川町、高丘町にある永楽荘、高丘寮、百楽園、ケンゆのかわの4施設は毎年合同で夏祭りを開催しています。地域の方々と共に毎年実施していましたが、令和5年度は感染症対策として、施設ご入居者のみでの開催としました。また、開催日は気温30度以上の予測となり、ご入居者・職員の体調への配慮から急遽、各施設での行事開催へ変更しました。

永楽荘

担当者コメント

お祭りの雰囲気を感じてもらえるよう、盆踊り会場や縁日コーナーを設置し、室内でも楽しめる工夫をしました。参加者からは「楽しかった」と多くの声が聞かれました。

高丘寮

担当者コメント

食堂で夏祭りを開催しました。キッチンカーを呼び、食事を提供、抽選会も開催し参加者へ景品をお渡ししました。参加者からは大変好評でした。

百楽園

担当者コメント

ミニ夏祭りを開催しました。職員による音楽ライブやかき氷・ジュース・お菓子といった食べ物を提供。暑い中ではありましたが音楽と軽食を楽しみ、大いに盛り上がりました。

ケンゆのかわ

担当者コメント

夏の風物詩である“流しそうめん”とレクリエーションを実施しました。感染症対策として各階に分かれて行事を開催し、参加者も大変喜んでいました。

冬場の健康維持のために

ふらっと♨の１

包括ゆのかわ

包括ゆのかわでは、多目的ホールにて、「雪が降ると閉じこもりがち」との地域の声から、ふらっと気軽に立ち寄れる身近な集いの場を設けるため、湯川町１丁目の方を対象に冬期間限定の「ふらっと♨の１」を開催しています。健康に関するミニ講話＋軽体操の他、ひな祭りや湯川中学校の生徒との交流も楽しみました。これからも地域の方にとって“ふらっと”寄っていただける身近な場となるよう活動していきます。

明日を担うこどもたちへ

ノーマリー教室

包括ゆのかわ

圏域内の小学生を対象にノーマリー教室※を開催しました。1回目は「車椅子を使う方を理解する」をテーマに、車椅子の使用方法、注意点などを説明し、その後実際に、「乗る人」「介助する人」の体験学習を行いました。「自分たちにできる事」についての話し合いでは「歩道の真ん中に自転車を置かない」「ゴミを拾って通りやすくする」等の心温まる意見が多数出ていました。2回目は「高齢者を理解する」をテーマに「高齢者疑似体験セット」を着用し、体の変化に関する体験学習を行いました。

※ ノーマリー教室とは
地域住民に「ノーマライゼーション」※理念の普及のため、体験学習を通して障がい者への理解を深め、地域で共に生活することや社会福祉についての関心・理解を深めるための活動

※ノーマライゼーション：高齢者や障がい者を排除するのではなく、健常者と同等に当たり前に生活できるような社会こそが正常（ノーマル）な社会であるという考え方

「がん教育」出前講座

五稜郭病院

五稜郭病院では、地域がん診療連携拠点病院として、小中学校、高校を訪問し、「がん教育講座」を毎年、開催しています。令和5年度は市内の小中学校のほか、檜山北高校にも訪問し、講座を開催しました。

スポーツをとおしたふれあい

くるみ学園

令和5年9月10日（日）元プロボクサーで東洋・太平洋ライト級チャンピオンの坂本博之氏（SRSボクシングジム会長）がコロナ明け、５年ぶりに来園され子ども達とボクシングセッションを行いました。坂本氏は児童養護施設での生活を経験した当事者であり、プロボクシングを引退してから、ボランティアとして、施設を訪問し、「SRSボクシングセッション」など幅広い活動を行っています。この日もSRSボクシングセッションを通して、直接子ども達とふれあい「感じること」、「大人が子どもを育てていくことの大切さ」などをそれぞれの学年にわかりやすく語られ、「一瞬懸命その一瞬一瞬から始めていこう！」「夢はすぐに行動に移そう」など、「夢をかなえるための大切なこと」をご自身の経験を通してお話いただきました。子どもたちはどの学年も真剣に聞き入り、自分達の将来と向き合う良い機会となりました。

坂本博之
昭和45年福岡県生まれ。幼い頃から児童養護施設で育つ。施設のテレビでボクシングと出会いプロボクサーを目指す。20歳でプロデビュー後は数々のタイトルに輝く。平成19年に現役引退。現在は後進の育成とともに児童養護施設の支援を行っている。

コミュニティ参画

Hakodate Kōseiin

「育英基金」について

くるみ学園

※育英基金は、卒園児童の進級も対象としています。

くるみ学園では在籍する児童が大学や専門学校へ進学を希望するも金銭的な理由等により進学が困難となる者が生じた場合等に対応するため、「育英基金」を創設し、対象児童に育英資金を支給しています。育英基金は、昭和57年に「函館心の里親会」当時会長であった土井多紀子氏からの350万円の御寄附により創設されました。児童養護施設で生活する児童は、金銭的な理由等から高校卒業と同時に大半は就職をしていた状況でしたが、近年は育英資金の活用が進み、多くの児童が育英資金により進学することが出来る状況になっています。令和5年度も5名の児童が育英資金の給付を受け、進学・進級しており、支援をしてくださる企業や市民の方々からの御寄附があってからこそと改めて御礼申し上げます。今後も児童が将来の目標を持ち、大学や専門学校に進学できるよう支援を継続していきたいと考えております。

■くるみ学園 児童への育英資金給付状況

令和5年度 2,500,000円	令和4年度 3,000,000円	令和3年度 3,000,000円
■大　　学（進級3名） ■専門学校（進級1名・進学1名）	■大　　学（進級3名・進学1名） ■専門学校（進学2名）	■就　　職（1名） ■大　　学（進級1名・進学2名） ■専門学校（進学2名）
令和2年度 1,100,000円	**令和元年度 1,500,000円**	**平成30年度 1,500,000円**
■大　　学（進学1名） ■専門学校（進級1名） ■災害支援（1名）	■専門学校（進級3名）	■専門学校（進級3名）

■令和5年度 育英基金へのご支援者一覧

皆様のご支援に感謝いたします

広報誌等に掲載可能であることを確認できた方のみ氏名等を掲載させていただいております。

金野　裕希 任意団体／高田　剛／チョウ イ レイ
函館木材建材協会／ビジネスオーナーズクラブ 会長 工藤　健行
藤井　悦子／吉田　隆／㈱effect salon mirror 代表 増田　美佳
公益社団法人 JAIFA函館協会会長 小野寺美樹　（敬称略）他十数名

■育英基金へのご支援受付口座

ご支援を受け付けております

北洋銀行 五稜郭公園支店
店番号 328　普通預金 4204548
函館厚生院 くるみ学園　園長 村瀬　優

Hakodate Kōseiin

資　料　編

厚生院グループ法人データ

各病院・施設のデータ

ISO対照表

Corporate Social Responsibility

Corporate Data | 厚生院グループ法人データ

総事業数

■病院 ■看護教育
■児童福祉・育児支援
■入所サービス
■通所・訪問・居宅ケア
■地域相談窓口

39事業

総敷地面積

235.74千㎡

サービス活動収益

38,670【令和5年度】百万円

総定員数

病院（ベッド数） 1,206床

■函館中央病院 …… 527床
■函館五稜郭病院 …… 480床
■ななえ新病院 …… 199床

施設（定員数） 854名

■くるみ学園（地域小規模含む） ……45名
■永楽荘 …… 150名
■高丘寮 …… 120名
■ケアハウス豊寿 ……50名
■百楽園（サテライト含む）…… 129名
■ケンゆのかわ …… 150名
■ベイアニエス……50名
■ももハウス……60名
■もも太郎…… 100名

総職員数

2,962名

男 性	831名
女 性	2,131名

家族も含めると6,000人余を抱える函館市では市役所に次いで2番目の大所帯です

職種別

■医　師 ……248名
■看護職員……1,209名
■介護職員 ……374名
■セラピスト ……149名
■その他医療資格者……271名
■事務職員その他 ……711名

ワークライフバランス

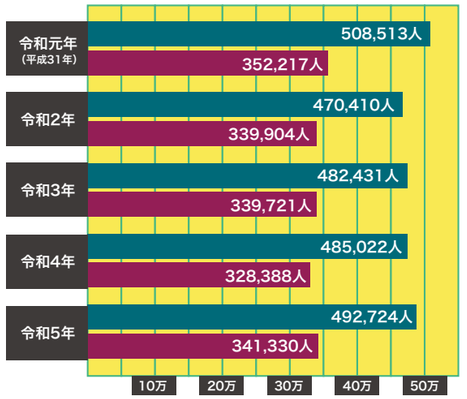
■産休・育休取得者数…… 98名
■院内保育所延利用園児数 ……11,728名
（函館中央病院・函館五稜郭病院・ななえ新病院の合計）

Corporate Data | 厚生院グループ法人データ

環境データ（各燃料使用量）

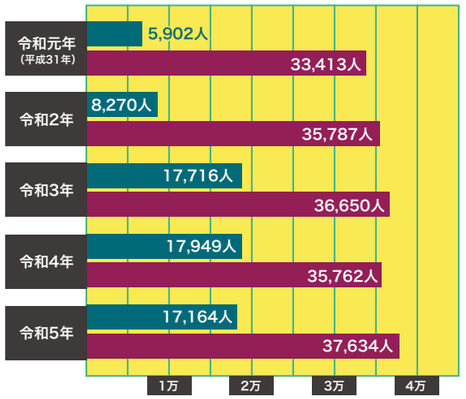
	令和元年（平成31年）	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
電　気	15,295千kwh	14,324千kwh	15,867千kwh	15,154千kwh	15,700千kwh
ガソリン 軽　油	89,479ℓ	88,764ℓ	92,329ℓ	93,257ℓ	93,864ℓ
ガ　ス	742,001㎥	741,538㎥	728,334㎥	1,010,543㎥	1,227,439㎥
重　油	2,116,274ℓ	2,615,568ℓ	2,128,557ℓ	1,645,262ℓ	1,281,462ℓ
灯　油	109,143ℓ	113,968ℓ	115,041ℓ	112,637ℓ	115,904ℓ

病院データ



病床稼働率				
令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
87.7%	84.9%	84.8%	82.0%	85.0%

介護・福祉データ



入所者数（延人数）				
令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
304,462	300,847	295,880	292,178	293,168

※法人全体の延べ人数総計　※訪問サービス…訪問看護、訪問リハビリ、訪問介護　※通所サービス…通所介護、通所リハビリ

各病院・施設のデータ

病　院

函館中央病院
(無料又は低額診療施設)

■外来延べ患者数 ‥‥204,411名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥‥677名
■入院延べ患者数‥‥‥128,543名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥‥351名
■平均在院日数 ‥‥‥‥‥‥‥12.8日
■病床稼働率 ‥‥‥‥‥‥‥ 84.0%
■ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ実施単位数‥‥163,772
■職員数 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥1,032名

函館五稜郭病院
(医療保護施設)

■外来延べ患者数 ‥‥263,755名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥‥903名
■入院延べ患者数‥‥‥143,497名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥‥392名
■平均在院日数 ‥‥‥‥‥‥‥11.3日
■病床稼働率 ‥‥‥‥‥‥‥ 81.7%
■ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ実施単位数‥‥138,438
■職員数 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥1,114名

ななえ新病院
(無料又は低額診療施設)

■外来延べ患者数‥‥‥‥22,175名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥‥ 91名
■入院延べ患者数‥‥‥ 69,288名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥‥189名
■平均在院日数 ‥‥‥‥‥ 82.0日
■病床稼働率 ‥‥‥‥‥‥‥ 95.4%
■ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ実施単位数 ‥‥ 66,374
■訪問看護延べ利用者数‥‥4,214名
■デイケア延べ利用者数‥‥9,146名
■職員数 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 214名

入所施設

くるみ学園
(児童養護施設)

■延べ入所者数 ‥‥‥‥‥‥12,850名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥ 35.1名
■稼働率 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 78%
■職員数(嘱託医除く)‥‥‥‥ 40名
地域小規模・児童家庭支援センター職員含む

高丘寮
(救護施設)

■延べ入所者数 ‥‥‥‥‥‥40,613名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥‥111.0名
■稼働率 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥92.5%
■職員数(嘱託医除く)‥‥‥‥ 44名

永楽荘
(養護老人ホーム)

■平均介護度 ‥‥‥‥‥‥‥‥1.7
■延べ入所者数 ‥‥‥‥‥51,243名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥‥145.5名
■稼働率‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥97.0%
■ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ延べ利用者数※1‥‥1,152名
■ｼｮｰﾄｽﾃｲ1日平均利用者数※2 ‥‥5.3名
■職員数(嘱託医除く)‥‥‥‥‥ 65名
※1 定員30名　※2 定員9名

百楽園
(特別養護老人ホーム)

■平均介護度‥‥‥‥‥‥‥‥‥4.3
■延べ入所者数 ‥‥‥‥‥46,695名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥‥127.6名
■稼働率‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥98.9%
■ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ延べ利用者数※1‥‥10,407名
■ｼｮｰﾄｽﾃｲ1日平均利用者数※2 ‥‥15.4名
■職員数(嘱託医除く)‥‥‥‥‥102名
※1 定員40名　※2 定員20名

ももハウス
(特別養護老人ホーム)

■平均介護度‥‥‥‥‥‥‥‥‥4.2
■延べ入所者数 ‥‥‥‥‥21,256名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥‥‥58.1名
■稼働率‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥96.8%
■ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ延べ利用者数※1‥‥4,441名
■ｼｮｰﾄｽﾃｲ1日平均利用者数※2‥‥ 8.8名
■職員数(嘱託医除く)‥‥‥‥‥ 53名
※1 定員25名　※2 定員10名

ケンゆのかわ
(介護老人保健施設)

■平均介護度‥‥‥‥‥‥‥‥‥3.0
■延べ入所者数 ‥‥‥‥‥53,325名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥‥141.8名
■稼働率‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥94.5%
■デイケア延べ利用者数※1‥‥10,486名
■ｼｮｰﾄｽﾃｲ1日平均利用者数 ‥‥‥ 3.9名
■職員数 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥141名
※1 定員53名

もも太郎
(介護老人保健施設)

■平均介護度‥‥‥‥‥‥‥‥‥2.8
■延べ入所者数 ‥‥‥‥‥31,576名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥‥‥86.3名
■稼働率‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥86.3%
■デイケア延べ利用者数※1‥‥2,002名
■ｼｮｰﾄｽﾃｲ1日平均利用者数 ‥‥‥ 0.3名
■職員数 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 67名
※1 定員20名

ケアハウス豊寿
(ケアハウス)

■平均介護度‥‥‥‥‥‥‥‥‥1.9
■延べ入所者数 ‥‥‥‥‥17,556名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥‥‥48.0名
■稼働率‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥96.0%
■職員数 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 25名

ベイアニエス
(ケアハウス)

■延べ入所者数 ‥‥‥‥‥18,054名
［1日平均］‥‥‥‥‥‥‥‥‥49.3名
■稼働率‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥98.6%
■職員数(嘱託医除く)‥‥‥‥‥‥ 9名

ISO26000対照表

函館厚生院グループでは、社会的責任に関する国際的な規格であるISO26000に沿って、CSR経営の体系化を進めています。グループ全体で取り組むべき課題と目標は、このISO26000に示された課題を理解した上で、グループとしての経営課題とすり合わせて設定し、進捗を管理・報告しています。

中核主題	課　題	CSRレポート掲載の取組内容
6.2 組織統治	組織統治	■函館厚生院の基本理念 (P03) ■函館厚生院の5つの基本・モットー(P03) ■HISTORY 函館厚生院のあゆみ(P03) ■理事長メッセージ(P04) ■函館厚生院グループの運営施設と事業(P05) ■座談会(P07)
6.3 人権	6.3.3:デューディリジェンス 6.3.4:人権に関する危機的状況 6.3.5:加担の回避 6.3.6:苦情の解決 6.3.7:差別及び社会的弱者 6.3.8:市民的及び政治的権利 6.3.9:経済的、社会的及び文化的権利 6.3.10:労働における基本的原則及び権利	■安心サポート事業(生活困窮者に対する地域貢献活動)(P11) ■「厚生院の墓」「育児の墓」の墓参(P13) ■函館厚生院では海外からの技能実習生を受け入れています(P14) ■「育英基金」について(P35)
6.4 労働慣行	6.4.3:雇用及び雇用関係 6.4.4:労働条件及び社会的保護 6.4.5:社会対話 6.4.6:労働における安全衛生 6.4.7:職場における人材育成及び訓練	■感染症に立ち向かうKMATの組成(P15) ■防犯研修(P17) ■ノーリフティングケア(P18) ■オンラインマザークラス(P18)
6.5 環境	6.5.3:汚染の予防 6.5.4:持続可能な資源の利用 6.5.5:気候変動の緩和及び気候変動への対応 6.5.6:環境保護、生物多様性、 及び自然生息地の回復	■廃材でベンチづくり(P19) ■ほりホリ市(P19) ■敬老の日にゴミ拾い(P20) ■環境ボランティア活動(P20)
6.6 公正な事業慣行	6.6.3:汚職防止 6.6.4:責任ある政治的関与 6.6.5:公正な競争 6.6.6:バリューチェーンにおける 社会的責任の推進 6.6.7:財政権の尊重	■肺がん手術における術前・術後 リハビリテーションと地域連携(P21)
6.7 消費者課題	6.7.3:公正なマーケティング、事実に即した 偏りのない情報、及び公正な契約慣行 6.7.4:消費者の安全衛生の保護 6.7.5:持続可能な消費 6.7.6:消費者に対するサービス、支援、並びに 苦情及び紛争の解決 6.7.7:消費者データ保護及びプライバシー 6.7.8:必要不可欠なサービスへのアクセス 6.7.9:教育及び意識向上	■災害派遣医療チーム(DMAT)の派遣(P23) ■日本環境感染学会災害時感染制御チーム(DICT)へ参加(P24) ■Reらいふ(P25) ■総合的な在宅支援事業 (七飯町における医療・介護ニーズへ対応する)(P26) ■GO!GO!ウォーキング(フレイル予防運動の開始)(P26) ■地域包括支援センター(P27)
6.8 コミュニティへの 参画及び コミュニティの発展	6.8.3:コミュニティへの参画 6.8.4:教育及び文化 6.8.5:雇用創出及び技能開発 6.8.6:技術の開発及び技術へのアクセス 6.8.7:富及び所得の創出 6.8.8:健康 6.8.9:社会的投資	■インドネシア技能実習生が小学生と交流(P13) ■技能実習生が介護福祉士試験に合格(P14) ■NICU・GCU開設50周年記念 市民公開講座(P29) ■出前講座(P30) ■高橋病院との共同企画(P30) ■赤川町会でのリハビリ体操教室(P30) ■認知症サポーター養成講座(P30) ■子育て支援室「あそっか」(P31)■みかんカフェ(P32) ■ぽかぽかカフェ(P32)■ケアハウスの日常(P32) ■4施設合同夏祭り(P33)■ふらっと♨の1(P34) ■ノーマリー教室(P34)■「がん教育」出前講座(P34) ■スポーツをとおしたふれあい(P34)

【事業所別の問い合わせ先】

くるみ学園　〒041-0803 函館市亀田中野町38番地11

①児童養護施設くるみ学園 ※地域小規模児童養護施設いちい含む　TEL 0138-46-4178　FAX 0138-46-5009
②児童家庭支援センター くるみ　TEL 0138-46-5095　FAX 0138-46-5009
③子育て短期支援事業所 くるみ　TEL 0138-46-5095　FAX 0138-46-5009

永楽荘　〒042-0955 函館市高丘町3番1号

①養護老人ホーム 永楽荘
②通所介護事業所 デイサービスセンター永楽荘
③短期入所生活介護事業所 永楽荘
④特定施設入居者生活介護事業所 永楽荘
TEL 0138-57-1366　FAX 0138-57-1338

高丘寮　〒042-0955 函館市高丘町3番1号

①救護施設 高丘寮　TEL 0138-57-7038　FAX 0138-57-7098

ケアハウス豊寿　〒041-1111 亀田郡七飯町本町7丁目657番地5

①軽費老人ホーム ケアハウス豊寿
②特定施設入居者生活介護事業所 豊寿
TEL 0138-66-3377　FAX 0138-66-3388

百楽園　〒042-0955 函館市高丘町3番1号

①特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設) 百楽園　TEL 0138-57-7418　FAX 0138-57-7598
②地域密着型特別養護老人ホーム(地域密着型介護老人福祉施設) サテライト百楽園　TEL 0138-57-3611　FAX 0138-57-7598
③通所介護事業所 デイサービスセンター百楽園　TEL 0138-57-7418　FAX 0138-57-7598
④短期入所生活介護事業所 百楽園　TEL 0138-57-7418　FAX 0138-57-7598
⑤居宅介護支援事業所 百楽園　TEL 0138-36-5014　FAX 0138-36-5017

ケンゆのかわ　〒042-0932 函館市湯川町3丁目29番15号

①介護老人保健施設 ケンゆのかわ　TEL 0138-59-1211　FAX 0138-59-3990
②通所リハビリテーション事業所 ケンゆのかわ　TEL 0138-59-1211　FAX 0138-59-3990
③短期入所療養介護事業所 ケンゆのかわ　TEL 0138-59-1211　FAX 0138-59-3990
④訪問看護事業所 訪問看護ステーションケンゆのかわ　TEL 0138-59-1214　FAX 0138-59-3990
⑤居宅介護支援事業所 ケンゆのかわ　TEL 0138-36-1500　FAX 0138-59-3990
⑥訪問リハビリテーション事業所 ケンゆのかわ　TEL 0138-59-1211　FAX 0138-59-3990
⑦訪問介護事業所 ヘルパーステーション ケンゆのかわ　TEL 0138-36-0955　FAX 0138-59-3990
⑧身体障害者居宅介護事業所 ケンゆのかわ　TEL 0138-36-0955　FAX 0138-59-3990

ベイアニエス　〒041-0841 函館市日吉町4丁目7番82号

①軽費老人ホーム(ケアハウス) ベイアニエス　TEL 0138-31-3222　FAX 0138-31-3223

もも太郎　〒041-0804 函館市赤川町388番地1

①介護老人保健施設 もも太郎
②通所リハビリテーション事業所 もも太郎
③短期入所療養介護事業所 もも太郎
TEL 0138-47-5550　FAX 0138-47-5551

ももハウス　〒041-0804 函館市赤川町390番地2

①特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設) ももハウス　TEL 0138-47-3335　FAX 0138-47-3336
②通所介護事業所 デイサービスセンターももハウス　TEL 0138-47-3331　FAX 0138-47-6660
③短期入所生活介護事業所 ももハウス　TEL 0138-47-3979　FAX 0138-47-6660
④居宅介護支援事業所 ももハウス　TEL 0138-47-3380　FAX 0138-47-3336

【病院その他の問い合わせ先】

地域包括支援センター

①函館市地域包括支援センターゆのかわ(東央部第1圏域)
〒042-0932 函館市湯川町1丁目15番19号　TEL 0138-36-4300　FAX 0138-57-0080

②函館市地域包括支援センターたかおか(東央部第2圏域)
〒042-0955 函館市高丘町3番1号　TEL 0138-57-7740　FAX 0138-57-7746

看護専門学校(看護師養成所)　〒040-0011 函館市本町34番8-1号

①函館厚生院看護専門学校　TEL 0138-52-6335　FAX 0138-52-7368

函館中央病院　〒040-8585 函館市本町33番2号

①無料または低額診療施設 函館中央病院　TEL 0138-52-1231　FAX 0138-54-7520

函館五稜郭病院　〒040-8611 函館市五稜郭町38番3号

①医療保護施設 函館五稜郭病院　TEL 0138-51-2295　FAX 0138-56-2695

ななえ新病院　〒041-1195 亀田郡七飯町本町7丁目657番地5

①無料または低額診療施設 ななえ新病院　TEL 0138-65-2525　FAX 0138-65-3769
②ななえ新病院 デイケアセンター　TEL 0138-65-2568　FAX 0138-65-2549
③訪問看護ステーション なな心　TEL 0138-65-2566　FAX 0138-65-3900

CSR REPORT
Corporate Social Responsibility

函館厚生院グループ CSRレポート | 2024

発　行／2024年6月

編　集／函館厚生院 CSR推進室
室　長　船山　俊介(法人本部)
副室長　金子　雄一(法人本部)
三浦　剛(中央病院)
小池　翔太(ななえ新病院)
京谷　佳子(包括ゆのかわ)
石田　大輔(永楽荘)
信田　和奏(包括たかおか)

〒040-0011 函館市本町34番8-1号
TEL.0138-51-9588　FAX.0138-55-9693

〈 印刷・デザイン／有限会社 岡部広告室 〉